

令和3年度
事業報告

自 令和 3年4月 1日
至 令和 4年3月31日



公益社団法人 京都染織文化協会

は じ め に

京都染織文化協会は、昭和 16 年(1941)5 月に設立した社団法人京都織物輸出振興協会を起源とし、染織講社から染織祭衣装を譲り受けた京都織物卸商協会(昭和 24 年 7 月設立)を吸収合併したのち、社団法人京都織物商協会(昭和 40 年 7 月設立)となって現協会に名称変更して現在に至ります。令和 3 年(2021 年)は創立 80 周年を迎える記念すべき年を迎え、新型コロナウイルス感染拡大の渦中ではありましたが、文化学園服飾博物館(東京・代々木)において『再現女性の服装 1500 年—京都の染織技術の粋—』展を 7 月～9 月の 48 日間開催致しました。会期中は京都の染織職人による実演・ワークショップやオンライン講演会等の実施により、多くの入館者に恵まれ、日本の衣服の変遷と京都の染織技術の素晴らしさを広く啓発することができました。また 10 年に亘る染織祭調査の集大成として書籍『忘れられた祭り 京都染織祭—恐慌・戦争・復興を駆ける—』(思文閣出版)を発刊し、関係先への寄贈や全国書店での販売を通して、多くの方々に染織祭の存在と意義を知って頂くことができました。80 周年事業の 2 大柱として取り組んでまいりましたこれら事業が、コロナ禍にもかかわらず成功裡に終了出来たことは、ひとえに会員各位のご高配の賜物と深く感謝を申し上げる次第でございます。

平成 29 年度より国の助成等を受けて継続して取り組んでおります復元衣装(レプリカ)制作は、本年は「紅練緯地雪輪松花綱段替文様小袖」(室町 5 号)、「練緯地松皮菱団扇文様小袖」(室町 9 号)の復元に取り組みました。今回は京都府織物・機械金属振興センター協力のもと、現代では制作されていない練緯地(経糸が生糸、緯糸が練糸の平織物。染織祭衣装では 14 中の糸を使用)の復元から始め、多くの染織職人に携わって頂き完成することができました。

新型コロナウイルスの感染拡大による経済の低迷は、染織業界にも大きな打撃となり、ものづくりの現場は一層厳しい状況に置かれています。当協会では失われつつある染織技術と文化を一般社会に伝えながら、業界としてより良い方向へ発展していくために公益事業・会員事業両面からのアプローチを行い、関係団体、博物館等とも連携をとりながら後記の通り事業を推し進めてまいりました。

今後も引き続き会員各位のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年度 事業報告

1. 会員の加入及び退会

	期 首	加 入	退 会	期 末
会員数	4 1	0	2	3 9

加入商社：なし

退会商社：ウイルビー(株)、(株)瑞穂

2. 会務

■第73期通常総会

令和3年 5月25日	京都経済センター	1. 令和2年度事業報告承認の件 2. 令和2年度決算報告承認の件 3. 令和3年度事業計画(案)承認の件 4. 令和3年度収支予算(案)承認の件 5. 役員改選の件 6. 定款変更の件
---------------	----------	--

■理事会

令和3年 4月23日	京都経済センター	1. 令和2年度事業報告の件 2. 令和2年度収支決算報告の件 3. 定款変更の件 4. 第73期通常総会会場変更の件
---------------	----------	--

5月28日	書 面 決 議	1. 理事長、副理事長及び常務理事の選任について
-------	---------	--------------------------

9月1日	書 面 決 議	1. KPA 京都プリント振興協会主催『メイキング・ワークショップ 2022』に対する当協会の共催名義使用許可並びに助成金(50 万円)の交付承認について
------	---------	---

令和4年 3月16日	からすま京都 ホ テ ル	1. 令和4年度事業計画(案)の件 2. 令和4年度収支予算(案)の件 3. 第74期通常総会日程の件(5月23日於：ホテルオークラ京都) 4. 流動資産から定期預金への移行の件 5. 代表・業務執行理事の職務執行報告の件 6. 常務理事辞任の件
---------------	-----------------	--

3. 実施事業

■ 公益事業

(1) 染織文化資源の保全と啓発事業

当協会が基本財産に位置付ける「染織祭衣装」と「全国染織産地合同制作布地」を保全するとともに、これら所蔵資料にみる染織技術の公開や資料そのものの一般公開により一般社会に伝える知識普及啓発を目的とし、下記事業に取り組んだ。

* 「染織祭」の詳細調査並びに公開

当事業は、昭和6年～26年に挙行された染織祭について北野裕子氏(龍谷大学 非常勤講師)に調査を依頼し、現存する史料や文献、ヒアリングなどから当時の社会・経済背景、染織祭挙行の経緯、衣装制作の詳細を明らかにすることで、いまだ認知の薄い染織祭と復元女性時代衣装の存在を一般に広く知ってもらい、染織文化・染織技術を継承する目的で取り組んでおり、今年度は次の通り調査を行った。

<今年度調査先>

- ・ 文献調査—龍谷大学大宮・深草図書館、京都府立京都学・歴彩館、京都府立図書館
- ・ 資料調査—「呉織漢織女神」巧芸画(菊池契月)※昭和6年制作。第1回染織祭に奉讃。

「京都染物同業組合月報調査」(昭和6・7年)

「83年の歩み さよなら京都市電」(昭和53年)

<調査成果の公開>

- ・ 9/2「呉織漢織女神」巧芸画の確認並びに所有者へのヒアリングを京都市美術館学芸員と共にを行った。
- ・ 10/21 京都学・歴彩館開催の『吉川観方と風俗史考証の世界』にて担当学芸員に所蔵写真等についてヒアリングを行った。
- ・ 染織祭調査10年の節目として創立80周年記念書籍「忘れられた祭り 京都染織祭」の執筆を行った。(後記参照)
- ・ 調査により明らかになった内容はウェブサイト並びにweb上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』に追加掲載して一般社会に啓発した。

<入手資料>

染織祭調査で活用するために下記資料を入手した。

「奉祝記念 我等の生活」絵葉書(昭和15年)／yahoo オークション

「渡邊郁二商店結社十年誌」(昭和14年)／yahoo オークション

* 染織祭衣装台帳のデータベース化

手書きで作成された143領分の衣装台帳をデジタルデータに移行し、併せて衣装のあらゆる情報を一括に纏め端末上で管理する環境を整備するため、今年度は次の通り取り組んだ。

＜今年度の取組み＞

- ・江戸末期の衣装 15 領の傷み度確認。
- ・上古～江戸末期の着装構成物の各画像データ集積

* 染織祭関係史料の公開

当協会が保管する染織祭関係史料データをウェブサイト上で公開した。

＜今年度公開史料＞

衣裳行列担当組合並行列順位(昭和 8 年起) 6 ページ

時代行列衣裳寄託契約書綴(昭和 8 年以降) 127 ページ

* 染織技術アーカイブの作成に伴う資料調査と公開

当事業は所蔵資料に使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容をウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏めて公開する目的で行っており、今年度は次の通り公開した。

※染織祭衣装は平成 29 年度をもってすべて公開済。

(新規公開内容)

「全国染織産地合同制作布地」 1996／1997 年秋・冬物向布地 11 点

公開技術「織る」……ジャカード、よろけ織、ハッカバック織

* 染織祭衣装の補修・修繕並びにレプリカ制作

◎補修・修繕

当協会が設定する「傷みの 5 段階評価」に基づき、引き続き次の通り補修を依頼した。

＜対象衣装＞

鎌倉時代 9 号「桂」(令和 2 年度より継続)

＜依頼先＞

松下装束店(京都市中京区)

◎レプリカ制作

衣装の劣化に伴う将来の備えとして、また職人による技術復興・継承の機会としてレプリカの制作を行った。

＜対象衣装＞

室町時代 5 号「紅練緯地雪輪松花綱段替文様小袖」(後記参照)

室町時代 9 号「練緯地松皮菱団扇波文様小袖」(後記参照)

※令和 3 年度日本芸術文化振興基金、令和 3 年度京都染織会館助成金対象事業

＜協力先＞

京鹿の子絞振興協同組合／京都府織物・機械金属振興センター

＜取組み＞

- ・京都府織物・機械金属振興センター指導のもと、練緯生地の復元※に取り組んだ。

※経に生糸、緯に練糸を使用した平織物。14 中の糸を使用した。

- ・室町 9 号は本座絞り※の復元に取り組んだ。

※型を使用せず、模様の輪郭線を頼りに手加減で絞る技法

- ・「伝統産業の日 匠エキスポ」(2022. 3/12-13 於：みやこめっせ)において令和元年度完成の慶長小袖・辻が花小袖の新旧衣装の展示公開を行った。

* 創立 80 周年記念事業

協会創立 80 周年を記念して、次の事業に取り組んだ。

○展覧会の開催

「再現 女性の服装 1500 年—京都の染織技術の粋—」

会 期 7 月 15 日(木)～9 月 28 日(火)10：00-16：30 実質開催期間：48 日間

※7/16、9/17 は 19：00 迄。日・祝閉館(8/23 より水曜日臨時休館)※8/7-17 は夏季休暇

会 場 文化学園服飾博物館(東京都渋谷区代々木)

主 催 公益社団法人京都染織文化協会、文化学園服飾博物館

後 援 京鹿の子絞振興協同組合、京都刺繍組合

監 修 長崎 巖氏(共立女子大学 教授)

要 旨 当協会と博物館衣装による古墳～明治時代の日本の服装の変遷を概観し、
染織祭から 80 年余りを経た今日、京都の染織技術の再発見を試みる。

内 容 第 1 部 移り変わる風俗—京都染織文化協会の所蔵品から—

- ・古墳時代～明治時代初期までの衣装 30 点をマネキン着装で展示
(平安時代は博物館の唐衣裳装束 2 衣装)
- ・染織祭で使われた装飾品、旗、絵葉書などの資料
- ・昭和 8 年時代風俗行列の写真等
- ・日本の服飾史(年表パネル)

第 2 部 京都の染織技術ここにあり—文化学園服飾博物館所蔵品—

- ・江戸時代後期～昭和時代初期までの衣装等 24 点を衣桁掛け展示

第 3 部 染織技術の紹介

- ・唐織裂(現代のものと江戸時代のもの)
出品協力：榊川島織物セルコン、個人蔵
- ・友禅染裂(江戸時代)
出品協力：個人蔵
- ・刺繍裂(現代のものと江戸時代のもの)
出品協力：長艸繡巧房、個人蔵
- ・金彩裂と道具(現代のもの・摺箔／振箔(切箔・切金)／金クリ 3 種)

出品協力：田中金彩工芸
・京鹿の子絞り制作工程見本
出品協力：京鹿の子絞振興協同組合

入場者 3,071 名

- 催 物 ①京都の染織職人による実演(各日 11:00-12:00、刺繍のみ 11:00-19:00)
7/16 京刺繍(京繡すぎした)・7/17 金彩(田中金彩工芸)・7/24 疋田絞(高橋庸子)・7/31 色挿し(古代辻が花染研究会)・8/21 傘絞(高木純一)・8/28 色挿し(同)・9/17 京刺繍(同) ※9/11 疋田絞中止
②ワークショップの実施(第1部(13:00-14:00)第2部(14:30-15:30 各8名)
7/17 金彩参加者 16 名(申込 45 名) 7/24 疋田絞参加者 16 名(申込 40 名)
7/31 色挿し参加者 15 名(申込 48 名)8/21 傘絞参加者 16 名(申込 46 名)
8/28 色挿し参加者 15 名(申込 36 名) ※9/11 疋田絞中止(申込 37 名)
③講演会の実施(「近世以前の日本の服飾文化」長崎巖、「京都・染織祭」北野裕子)
7/31(土)13:00-17:00 ZOOM によるオンラインセミナー 参加者 107 名
④染織工程ビデオの上映(京友禅・丹後縮緬・京鹿の子絞)

入場料 一般 500 円／高・大学生 300 円／小・中学生 200 円

図 録 東京美術制作 96 項 600 冊制作 2021 年 7 月出版
(博物館に 350 冊納品し、会期中 321 冊販売 @2,000)

宣 伝 (協 会)80 周年記念展覧会特設ホームページの設置
(博物館)ポスター、ちらしの制作

広 報 (協 会)yahoo 検索広告、@PRESS(プレスリリース代行サービス)等 PR
(博物館)都内大学、都内美術館・博物館他等 PR

掲 載 ＊新聞・雑誌

美しいキモノ 2021 年夏号／十日町タイムス(5/13 付)／京都新聞(7/13 付)／東京新聞(7/21、25 付)／美術の窓 9 月号／月刊東京人 10 月号

＊業界紙

信用情報(6/21 付)／染織新報(6/6 付)／織研新聞(6/22 付)/KYO
WAVE(2021 秋号)

＊ネットニュース

朝日新聞(6/28 付)／財經新聞(7/15 付)／サンスポ(7/15 付)／ロイター(7/15 付)／産経 Biz(7/15 付)／読売新聞(7/16 付)／徳島新聞(7/16 付)／京都新聞(7/17 付)／装苑(7/21 付)／LINE ニュース(6/25 付)他 158 件

＊ウェブサイト



(左から展覧会ちらし・図録表紙・展示風景・実演風景)

○書籍の発刊

「忘れられた祭り 京都染織祭 — 恐慌・戦争・復興を駆ける—」

著 者 (執筆者) 北野裕子氏 (龍谷大学経済学部 非常勤講師)

(監 修) 公益社団法人京都染織文化協会

概 要 昭和初期、世界恐慌の只中にあり、深刻な不況下にあった中で、なぜ豪華絢爛な染織祭が執り行われたのか。そこには染織大国・京都を取り巻く問題や日本一の観光都市を目指す行政の意図など、様々な思惑が交差した。協会に残された復元女性時代衣装や史料の数々から祭りの全容を解明する。

- 構 成
1. ごあいさつ(協会理事長)
 2. プロローグ—染織祭との出会い
 3. 本題に入る前に
 4. 第1章 創設への道程—発端・中核・構想
 5. 第2章 染織祭の背景—京都染織業界と京都市、それぞれの思惑
 6. 第3章 染織祭の展開—第一回・第三回染織祭と女性時代風俗行列
 7. 第4章 染織祭の変質—戦時期・戦後復興期の活動
 8. まとめ
 9. エピローグ—染織祭の意義とは？
 10. 附表 染織祭関連年表・協会文書リスト、参考文献一覧
 11. 附録 染織祭関連資料紹介、染織祭女性時代衣装一覧

出 版 思文閣出版(思文閣ワークス制作)

制 作 B5判 64項(予定)400冊制作 2021年7月出版

配 布 協会会員、関係団体、関係先美術館・博物館他

販 売 1,500円(税抜) ※一般書店並びにネット通販にて販売



(表紙)

2021 年上半期売上 102 冊(思文閣へ 200 冊委託)

宣 伝 1. 80 周年記念展覧会会場にて告知

2. 当協会 HP 並びに FB にて告知

広 報 美しいキモノ 2021 秋号/KYO WAVE2021 秋号

*** 所蔵資料貸付協力**

(染織祭衣装)

◎報道ランナー「今昔さんぽ」への写真提供並びに取材協力

依 頼 先 関西テレビ

目 的 昭和 59 年に行われた染織まつりの写真をもとにして現在の場所を特定するとともに、染織まつりが再現した染織祭時代風俗行列と衣装を紹介。

放 映 日 令和 4 年 3 月 18 日

提供画像 染織まつり画像 1 枚

(全国染織産地合同制作布地)

◎布地の閲覧依頼

依頼先 嵯峨美術大学

目 的 織物開発や裂の再活用を学ぶ「京都プロジェクト」授業において、参考資料として活用。

期 間 11 月 16 日～28 日

貸出物 サンプルブック 26 冊

(2) 染織技術等継承事業

日本の染織技術を次代に継承していくために、染織に馴染みの薄い人たちにあらゆる方法でもって伝えることで認知と理解を深め、将来携わる人々を増やす目的で次の事業に取り組んだ。

*** 子ども向け染織技術啓発冊子の配布**

きものをより身近な衣服として受け止めてもらおうと共に、きものには様々な技術が使われていることをわかりやすく伝え染織技術の一端を知ってもらうことを目的に小冊子を制作し、従来は子どもが初めてきものを着るシーンである十三まいり、七五三詣りにて配布しているが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大を懸念し、下記の通り配布した。

<配布先>

高島屋 6 店舗の呉服売り場 合計 300 冊

(日本橋・新宿・横浜・名古屋・大阪・京都)

*** 染織文化セミナーの開催**

◎「身分表現としての、服装と染織技術の選択 ―近世以前の日本の服飾文化―」

日 時 8 月 26 日 (木) 14:00～16:00

講 師 長崎 巖 氏 (共立女子大学 教授)

内 容 衣服が身分の標章としての役割を持った、近世以前の日本の服装と染織技術の選択を学ぶ。

受 講 料 無 料

広 報 (会員・関係団体・美術館等) 当協会より案内送付

(一般) 7/21 京都新聞夕刊に広告掲載。当協会ウェブサイト、フェイスブックで告知。

受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 50 名※感染拡大防止のため 50 名限定

◎「忘れられた祭り 京都染織祭―恐慌・戦争・復興を駆ける―」

日 時 令和 4 年 3 月 16 日 (水) 14:00～16:00

会 場 からすま京都ホテル 2 階 双舞の間

講 師 北野 裕子氏 (龍谷大学 非常勤講師)

内 容 染織祭の成り立ち・意義の検証と衣装の貴重性を紹介。

受 講 料 無 料

広 報 (会員・関係団体・美術館等) 当協会より案内送付

(一般) 2/25 京都新聞夕刊に広告掲載。当協会ウェブサイト、フェイスブックで告知。

受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 50 名※感染拡大防止のため 50 名限定

*** インターネットミニ染織講座の開催**

当協会ウェブサイト内において、衣装レプリカ制作工程を撮影した動画を制作し、インターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードし相互リンクして当協会ウェブサイトの閲覧を促した。

◎衣装複製制作プロジェクトシリーズ

①「桃山時代 4 号 衣装完成」(更新日: 4 月 16 日)

②「室町時代 5・9 号 整経工程」(更新日: 4 月 20 日)

③「室町時代 5・9 号 織り工程」(更新日: 8 月 3 日)

④「室町時代 5・9 号 下絵工程」(更新日: 10 月 11 日)

⑤「室町時代 5・9 号 糸入れ工程」(更新日: 11 月 4 日)

⑥「室町時代 5 号 染め分け」(更新日: 12 月 16 日)

⑦「室町時代 5 号 染色」(更新日: 12 月 16 日)

- ⑧「室町時代 9 号 本座絞り」(更新日：12 月 16 日)
- ⑨「室町時代 9 号 染め分け」(更新日：令和 4 年 2 月 25 日)
- ⑩「室町時代 9 号 染色」(更新日：令和 4 年 2 月 28 日)
- ⑪「室町時代 5 号 辻が花(彩色)」(更新日：令和 4 年 3 月 31 日)
- ⑫「室町時代 9 号 辻が花(描き画)」(更新日：令和 4 年 3 月 31 日)

(3) 染織技術等継承に関わる助成事業

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、当協会助成規定に基づき次の事業への助成を行った。

◎KPA 京都プリント振興協会「メイキング・ワークショップ 2022」への共催

会 期	10 月 29 日(金)～31 日(日)10:00～17:00
会 場	京都府京都文化博物館別館(中京区三条高倉)
出 展 者	15 社 35 組
内 容	染色業に携わる職人の創造力、技術力の向上を図るため、制作の機会、発表の場を提供した。今回は「笑顔を色に!#楽しくなければプリントじゃない」をテーマに装飾性の高いプリントを訴求し、色・プリント技術での意匠表現に挑戦したプリント服地の提案を行った。当協会からは共催名義使用許可、助成金 50 万円の交付、京都染織文化協会理事長賞の下付を行った。
入場者数	844 名

■会員事業

*** 会員のための啓発事業**

◎展覧会招待

<招待展覧会>

- ・「上野リチ」展(11/6～2022. 1/16 京都国立近代美術館)
- ・「兵馬俑と古代中国」展(2022. 3/25-5/22 京都市京セラ美術館)

*** 京都プレス事業**

当事業は染織品の発展と更なる需要を促すために、伝統的な染織技術と先端技術を融合させた新しい素材の開発と加工に取り組み、市場での反応を調査した後、その技術と情報を会員商社にフィードバックする目的で行っている。今年度も和装素材の新しい提案としてシルクオパール糸の開発並びに織物の制作を京都市産業技術研究所、京都府織物・機械金属振興センターの協力により、引き続き取り組んだ。

* 会員助成事業

歴史ある染織技術を継承し発展することを目的に、会員の企業活動に対する助成金拠出については、令和元年度末に行った資産取崩の影響から脱却できていないことから、今年度は中止した。

令和3年度 染織祭衣装レプリカ制作衣装

室町時代5号「紅練緯地雪輪松花綱段替文様小袖」(生地：練緯 技術：染め分け、絞り、辻が花)

新衣装(令和3年度制作)	旧衣装(昭和6～8年制作)
	

室町時代9号「練緯地松皮菱団扇波文様小袖」(生地：練緯 技術：染め分け、本座絞り、辻が花)

新衣装(令和3年度制作)	旧衣装(昭和6～8年制作)
	